

離任のご挨拶

この度、転勤の発令を受け、近くアルジェリアを離任することになりました。大使館HPを通じて、皆さまに離任のご挨拶を申し上げます。

アルジェリア在勤は、3年10か月となりました。個人的な話になりますが、これはこれまでの私の在外の任地で、最も長い年月を過ごした国ということになります。2020年12月に着任した当時は、まだまだコロナ禍が猛威を振るっていたので、しばらくの間は活動に制約もありましたが、2022年の当国の独立60周年、また我が国との外交関係60周年の頃から少しずつ経済社会活動が平常化していく、そんな時期を当地で過ごすこととなりました。

そのような平常回帰が進む中で、2022年の後半あたりから今年にかけて、当国への直接投資を含め、ビジネスの可能性を求めて来訪される日本の企業関係者も増えてきました。アルジェリアは炭化水素資源にとどまらず、農業や製造業を含め、様々な分野で大きなポテンシャルを有する地域大国であり、我が国との民間経済関係が新たな広がりを見せることを強く期待しています。任期中に、「租税条約」と「合同経済委員会設立協定」の二つの二国間条約の交渉が妥結し、いずれも2023年には署名、本年効力発生に至りました。これらは日本とアルジェリアの間の経済関係の一層の進展を目指すものであり、テブン大統領の下で矢継ぎ早に打ち出された、新たな投資法制定を始め、ビジネス環境改善に向けたアルジェリア自身の施策と相まって、今後効果を上げていくことを切に願っています。

コロナ禍の最中はほぼ中断を余儀なくされたJICAによる技術協力も、当国を兼轄するJICAチュニジア事務所の尽力により、「漁業」、「防災」、そして「エネルギー転換」を主要な柱とする形で再活性化しつつあります。当国の重視する経済多角化と食糧安全保障、自然災害に対する備え、次世代エネルギー実用化への取組といった分野で、我が国の知見と技術を活用する形で当国の更なる発展に寄り添っていければと思います。

開発分野では、草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、アルジェリア各地のNGOと出会い、具体的なプロジェクトとともに毎年実施できたことは、私にとって大きな喜びであり、誇りとするところです。これらを通じて、アルジェリアの人々の思いやり、助け合いの精神の強さを垣間見ることができました。アルジェリアは炭化水素やその他の天然資源に恵まれた国というイメージが強いですが、様々な困難に直面

しても、しなやかさと強靱性をもってコミュニティを維持、発展させていく人々の存在こそが、アルジェリアの最大の資源であり強さの根源であると感じます。

また、小さな一歩ではありますが、本年7月に、地中海を航行する海上自衛隊練習艦隊とアルジェリア海軍との間で、二国間で初めてとなる合同訓練を実施できたことも意義深いことと感じています。地理的な懸隔もあって、部隊レベルでの合同訓練などは容易ではない面もありますが、機会を捉えて両国間の防衛交流が進展していくことを願っています。

思い出は尽きませんが、最後に、この4年近くの当地での勤務に当たって、私及び日本大使館の活動を支えていただいた日本、アルジェリア両国の全ての関係者の皆さまに、心からの御礼を申し上げます。

後任となる鈴木光太郎大使は、10月下旬の着任を予定しています。中東地域で豊富な経験を有する外交官であり、二国間関係に新たな息吹を与えてくれるものと信じています。皆さまからの変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2024年10月
河野 章